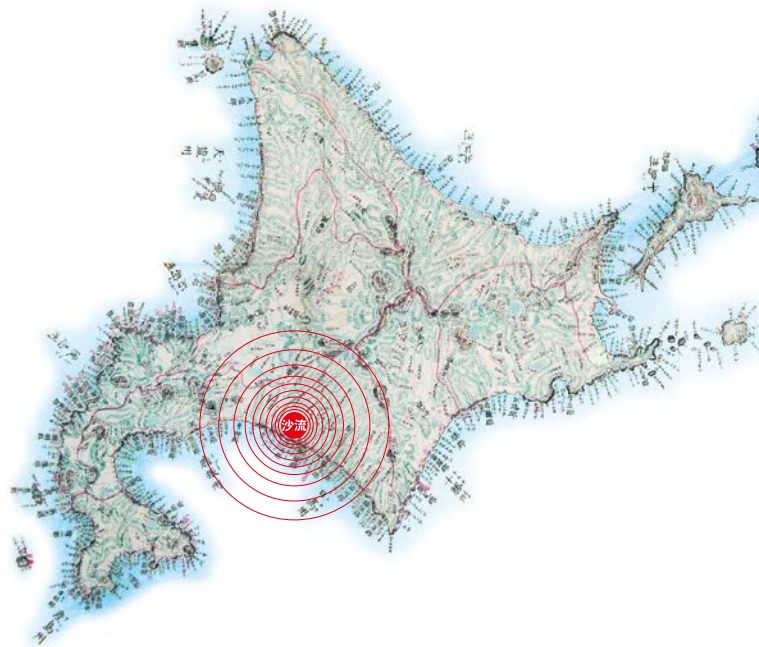


中級

アイヌ語

沙流

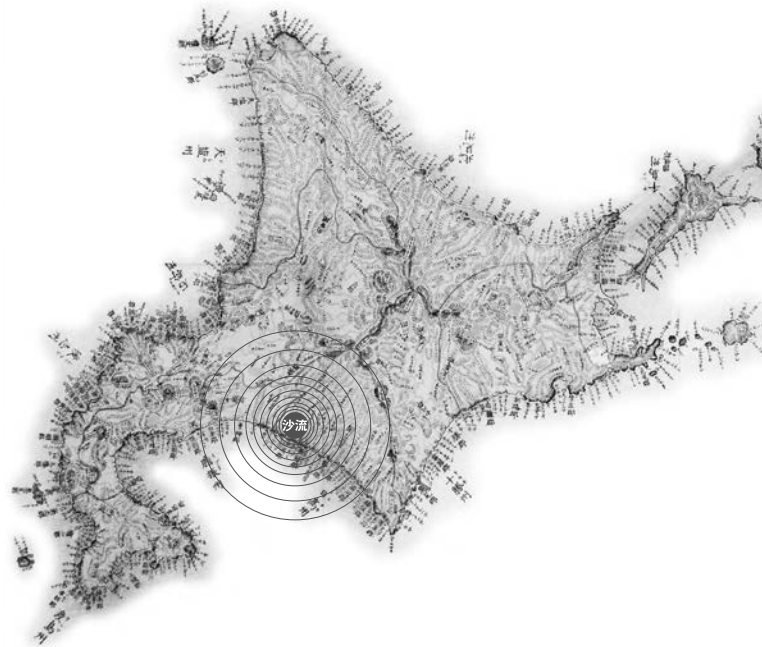


公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

中級

アイヌ語

沙流



公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構

このテキストについて

当公益財団では、2010年度にアイヌ語千歳方言、美幌方言、幌別方言の教科書を作成しました。2011年度は、前年度に作成された教科書を踏襲しつつ改良を加え、静内方言、釧路・白糠方言、十勝方言の教科書を新たに作成しました。今年度は更に、石狩川方言、沙流方言、カラフト方言の教科書を作成しました。

編集方針

このテキストは、アイヌ語の初歩を学んだ人が、文法的に少し踏み込んだ内容を学ぶための教科書として作成しました。ただし、この本から学習を始めたとしても問題の無いように、なるべく平易な説明をこころがけました。文法の学習に加え、伝統的な言葉あそびや、よく知られた童謡のアイヌ語訳を掲載しています。副教材としてカルタも添え、さまざまな角度から、楽しみながら言葉を身につけられるようにしています。アイヌ語にはさまざまな方言があり、生活習慣も地域によって多少違います。そうした他地域の言葉・文化に関心をもち、自分の地域についてもよく知るきっかけとなるよう、必要に応じて他方言についても解説しています。

例文と単語について

本書『中級アイヌ語－沙流－』の本編の例文と単語は、日高地方の沙流川流域（平取町および日高町）のアイヌ語話者たちによって残された数々の資料に基づいています。詳しくは巻末の参考文献をご覧ください。例文はアイヌ語話者による発話をそのまま採用しています。

音声について

アイヌ語の発音は日本語と異なっており、特に難しいところは、音声を聞きながら学習する必要があります。この本を教室等で利用するほか、家庭でも利用できるように、例文や単語、言葉あそび、歌などの音声を収録しました。収録に協力してくださったのは、普段は日本語で生活し、アイヌ語は学習によって身につけた方々です。一般に言葉を学ぶときには、もともとその言葉を使っている方から教わるのがよいとされており、これはアイヌ語においても同じことがいえます。しかし、そうしたアイヌ語の発音に触れる機会が少ない中で、最初の手がかりになればという考えから、音声を用意しました。

この本を通じてアイヌ語に関心を持たれた方、さらに学習を進めたい方は、これまでに出版されたより専門的な解説書や視聴覚教材を参照されることをおすすめします。

この本を編集する過程で多くの方にご指導を頂きました。記してお礼申し上げます。

【例文・単語】

太田満（石狩川方言）、大野徹人（沙流方言）、北原次郎太（カラフト方言）
高橋靖以（執筆協力）

【文法解説】

太田満（石狩川方言）、大野徹人（沙流方言）、北原次郎太（カラフト方言）
高橋靖以（執筆協力）

【言葉遊び・歌】

北原次郎太

【音声収録（五十音順）】

太田奈々、加納ルミ子、川上さやか、川村久恵、杉村フサ、竹内隼人、
豊川容子、中井貴規、八谷麻衣、山道ヒビキ、山道陽輪、山本りえ、

【イラスト】

小笠原小夜、椎名庵

凡 例

- ・本書のアイヌ語の表記は、主に『アコロイタッ』（北海道ウタリ協会 1994）の表記法に基づくものです。ただし、一部異なる点があります。詳しくは「音節表」を参照してください。
- ・例文は全てカタカナ・ローマ字・逐語訳の併記としました。
- ・カタカナ表記は実際の発音をわかりやすく示すことを意図したものです。一方、ローマ字表記は、辞書検索がしやすいように、個々の語を境界ごとに区切って示しました。
- ・アクセントを説明する際、アクセントの位置を__で示しました。また、ローマ字は必要に応じてáやíのように、アクセントを示す記号で示しました。
- ・ローマ字表記において、人称接辞の境界を＝で示しました。

アイヌ語沙流方言 中級編 目次

序文	2
凡例	5
音節表	8
① アイヌ語の発音と表記 1	10
② アイヌ語の発音と表記 2	12
③ 音の交替とアクセント	14
④ 「～が…する」「～は～である」平叙文	16
⑤ 「はい」「いいえ」で答える疑問文	18
⑥ 疑問詞を用いた表現 1	20
⑦ 疑問詞を用いた表現 2	22
⑧ 「…しない」否定文	24
単語を覚えよう 1～様子を表す言葉 1～	26
さまざまなイポロセ 1	27
⑨ 「～しなさい」命令文 1	28
⑩ 「…しなさい」命令文 2	30
⑪ 「…するな」禁止文	32
⑫ 「私が」「あなたが」1人称・2人称単数主格	34
⑬ 「私たちが」「あなたたちが」1人称・2人称複数主格	36
⑭ 「私たちが」包括的 1人称複数主格	38
⑮ 「私を」「あなたを」目的格人称	40
⑯ 「私があなを」「あなたが私を」人称の組み合わせ	42
単語を覚えよう 2～様子を表す言葉 2～	44
さまざまなイポロセ 2	45
⑰ 尊敬の表現と不定人称	46
⑱ 「私」「あなた」人称代名詞	48
⑲ 動詞の単数・複数 1	50
⑳ 動詞の単数・複数 2	52
㉑ 動詞の単数・複数 3	54
㉒ 自動詞・他動詞・複他動詞	56

23 「たくさん」「少し」 副詞	58
24 位置関係の表現 1	60
単語を覚えよう 3 ～動作を表す言葉 1 ～	62
さまざまなイポロセ 3	63
25 位置関係の表現 2	64
26 場所の表現	66
27 所有の表現 1	68
28 所有の表現 2	70
29 親族関係の表現	72
30 形式名詞	74
31 連体修飾表現	76
32 「この」「その」「あの」 連体詞	78
単語を覚えよう 4 ～動作を表す言葉 2 ～	80
さまざまなイポロセ 4	81
33 「～へ」「～から」 格助詞	82
34 「～も」「～だけ」 副助詞	84
35 「～した」「これから…する」 助動詞	86
36 「～して」「～しながら」 接続助詞 1	88
37 「～なので」「…すると」 接続助詞 2	90
38 「…するように」 接続助詞 3	92
39 接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1	94
40 接続助詞と動詞を組み合わせた表現 2	96
単語を覚えよう 5 ～程度を表す言葉～	98
さまざまなイポロセ 5	99
41 「～だよ」「～ですか」 終助詞	100
42 形式名詞による文末表現 1	102
43 形式名詞による文末表現 2	104
44 「～と」 引用の表現	106
参考文献	108

アイヌ語(北海道方言)の音節(カタカナ表記)

【母音】

ア	イ	ウ	エ	オ
---	---	---	---	---

【子音+母音】

カ	キ	ク	ケ	コ
サ	シ	ス	セ	ソ
タ		ト (トウ)	テ	ト
チャ	チ	チュ (ツ)	チェ	チヨ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ
パ	ピ	プ	ペ	ポ
マ	ミ	ム	メ	モ
ヤ	イ	ユ	イエ	ヨ
ラ	リ	ル	レ	ロ
ワ		ウ	ウエ	ウオ

【母音+子音】

アク	イク	ウク	エク	オク
アシ (アス)	イシ (イス)	ウシ (ウス)	エシ (エス)	オシ (オス)
アツ	イツ	ウツ	エツ	オツ
アン	イン	ウン	エン	オン
アブ	イブ	ウブ	エブ	オブ
アム	イム	ウム	エム	オム
アイ		ウイ	エイ	オイ
アラ (アル)	イリ (イル)	ウル	エレ (エル)	オロ (オル)
アウ			エウ	オウ

【子音(例としてカ行の音)+母音+子音】

カク	キク	クク	ケク	コク
カシ (カス)	キシ (キス)	クシ (クス)	ケシ (ケス)	コシ (コス)
カツ	キツ	クツ	ケツ	コツ
カン	キン	クン	ケン	コン
カブ	キブ	クブ	ケブ	コブ
カム	キム	クム	ケム	コム
カイ		クイ	ケイ	コイ
カラ (カル)	キリ (キル)	クル	ケレ (ケル)	コロ (コル)
カウ	キウ		ケウ	コウ

アイヌ語(北海道方言)の音節(ローマ字表記)

【母音】

a	i	u	e	o
---	---	---	---	---

【子音＋母音】

ka	ki	ku	ke	ko
sa	si	su	se	so
ta		tu	te	to
ca	ci	cu	ce	co
na	ni	nu	ne	no
ha	hi	hu	he	ho
pa	pi	pu	pe	po
ma	mi	mu	me	mo
ya	yi	yu	ye	yo
ra	ri	ru	re	ro
wa		wu	we	wo

【母音＋子音】

ak	ik	uk	ek	ok
as	is	us	es	os
at	it	ut	et	ot
an	in	un	en	on
ap	ip	up	ep	op
am	im	um	em	om
ay		uy	ey	oy
ar	ir	ur	er	or
aw			ew	ow

【子音(例としてK)＋母音＋子音】

kak	kik	kuk	kek	kok
kas	kis	kus	kes	kos
kat	kit	kut	ket	kot
kan	kin	kun	ken	kon
kap	kip	kup	kep	kop
kam	kim	kum	kem	kom
kay		kuy	key	koy
kar	kir	kur	ker	kor
kaw	kiw		kew	kow

ステップ1 アイヌ語の発音と表記1

アイヌ語の音

アイヌ語の音は5つの母音(a, i, u, e, o)と11の子音(c, h, k, m, n, p, r, s, t, w, y)の組み合わせでできています。これらの音を表記する場合、カタカナまたはローマ字が用いられます。

音節（音の組み合わせ）

音の組み合わせのパターンには、次の4つがあります。

- | | |
|-----------|---------------|
| ①母音 | ア a 「～が座る」 |
| ②子音＋母音 | マ ma 「～が泳ぐ」 |
| ③母音＋子音 | エク ek 「～が来る」 |
| ④子音＋母音＋子音 | チク cik 「～が滴る」 |

このような音の組み合わせの単位を「音節」と呼びます。①②のように母音で終わるものを「開音節」、③④のように子音で終わるものを「閉音節」と呼びます。

発音と表記のポイント

開音節について、発音と表記のポイントを説明します。

- (1)「母音」は「ア a, イ i, ウ u, エ e, オ o」で表記します。母音の発音は、日本語とほぼ同じですが、「ウ」は日本語よりもやや口の奥で発音されます。そのため、聞き取りが難しくなることがあります。また、地域や個人によっても多少発音が異なります。
- (2)「子音＋母音」は日本語の力行以降のカタカナと同じように書き表します。ただし、力行とガ行、タ行とダ行、パ行とバ行の区別（無声音と有声音の区別）はアイヌ語にはありません。また、サ行とシャ行の区別もありません（例えば、**スサム susam** 「シシャモ」を「シュシャム」と発音しても、言葉の意味は変わりません）。
- (3)タ行は「タ ta, トウ tu, テ te, ト to」です。「テイ ti」の音はアイヌ語では用いられません。
- (4)チャ行は「チャ ca, チ ci, チュ cu, チェ ce, チョ co」と表記されます。
- (5)ヤ行は「ヤ ya, イ yi, ユ yu, イェ ye, ヨ yo」です。イェは、「イ」と「ェ」をつなげて発音します。なお、「イ yi」は単語の先頭には現れません。yi は y で終わる形と i で始まる形が、単語の中で続いた場合にあらわれます。

- (6)ワ行は「ワ wa, ウ wu, ウェ we, ウォ wo」です。「ウェ」は「ウェブ」の「ウェ」のように、「ウ」と「ェ」をつなげて発音します。「ウォ」は「ウ」と「ォ」をつなげて発音します。yi は y で終わる形と i で始まる形が、単語の中で続いた場合にあられます。なお、「ウ wu」は単語の先頭には現れません。wu は w で終わる形と u で始まる形が、単語の中で続いた場合に現れます。

ステップ2 アイヌ語の発音と表記2

音節末の子音の表記

閉音節について、表記のポイントを説明します。

(1)閉音節の末尾には、**k, m, n, p, r, s, t, w, y**が現れます。**c**は閉音節の末尾には現れません。**h**が閉音節の末尾に現れるのは、主にサハリンの方言だけです。

(2)カタカナでは、閉音節の末尾の音を小文字で表記します。閉音節の末尾の**k, m, p, s, t**は小文字の「ク、ム、プ、シ、ツ」で表記します。

サク sak 「～が～を欠く」 モム mom 「～が流れる」 フナ hup 「～が腫れる」
チシ cis 「～が泣く」 サツ sat 「～が乾く」

(3)mの後に**p**が続くときは「ン」で表記します。

ドンプ tumpu 「部屋」 サンペ sampe 「心臓」

(4)閉音節の末尾の**r**は、前の母音と対応するラ行の小文字で表記します。**r**の音は、軽く舌尖ではじくような発音です。

カラ kar 「～が～を作る」 ピリ pir 「傷」 クル kur 「人、影」 ケレ ker 「履物」
コロ kor 「～が～を持つ」

(5)n、w、yは子音ですが、カタカナは大文字のまま表記します。

ラン ran 「～が下りる」 マウ maw 「風」 スイ suy 「穴」

なお、この方法では、「イ」に**y**と**i**、「ウ」に**w**と**u**という二つの音が割り当てられることとなります。これを避けるために、**w**や**y**にあたる部分を小文字で表記する方法もあります。

マウ maw 「風」 スイ suy 「穴」

(6)子音の連続**-kk-, -tk-, -pp-, -ss-, -tp-, -tt-**は「ッ」で表記します。カタカナでは「ッ」ですが、ローマ字の表記を見ると全て違う音であることがわかります。

ワッカ wakka 「水」 カッケマツ katkemat 「婦人」 チカッポ cikappo 「小鳥」
オッシケ ossike 「その中」 ミッポ mitpo 「孫」 ヘカッタラ hekattara 「子供達」

なお、音の違いをより厳密に表記するという立場もあり、それに従うと、上記の単語はこのように表記されます。

ワッカ wakka 「水」 カッケマツ katkemat 「婦人」 チカフポ cikappo 「小鳥」
オスシケ ossike 「その中」 ミツポ mitpo 「孫」 ヘカッタラ hekattar 「子供達」

ステップ3 音の交替とアクセント

音の交替

アイヌ語では、単語の最後の音と、次の単語の最初の音がつながった時に、音が交替することがあります。

ン+サ行音→	イ+サ行音:	ポン セタ→	ポイ セタ	小さな犬
n + s →	y + s →	pon seta	poy seta	
ン+ヤ行音→	イ+ヤ行音:	ポン ユク→	ポイ ユク	小さなシカ
n + y →	y + y →	pon + yuk	poy yuk	
ン+ワ行音→	ン+マ行音:	ウェンワ→	ウェン マ	悪くて
n + w →	n + m →	wen + wa	wen ma	

ラ行音+タ行音→	ツ+タ行音:	クコロ ト°キ	
r + t →	t + t	ku=kor tuki	
		→クコッ ト°キ	私の杯
		ku=kot tuki	

ラ行音+チャ行音→	ツ+チャ行音:	クコロ チセ	
r + c →	t + c	ku=kor cise	
		→クコッ チセ	私の家
		ku=kot cise	

ラ行音+ナ行音→	ン+ナ行音:	クコロ ニマ	
r + n →	n + n	ku=kor nima	
		→クコン ニマ	私の木皿
		ku=kon nima	

ラ行音+ラ行音→	ン+ラ行音:	クコロ ルスイ	
r + r →	n + r	ku=kor tamasay	
		→クコン ルスイ	私は欲しい
		ku=kon rusuy	

このような音の交替には、方言による差がみられます。ひとつずつ事例を覚えていきましょう。

このテキストでは、音が交替するときは、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

音の連結

閉音節の単語（子音で終わる単語）の後に、母音で始まる単語がくると、二つの単語が続けて発音されることがあります。

ペツ pet 「川」 オロ or 「ところ」 ウン un 「～へ」
→ ペトルン pet or un 「川のところへ」

サ^パ sap 「～が下る」 アン =an 「私たちが」 ア^クス akusu 「…すると」
→ サ^パナ^クス sap=an akusu 「私たちが下ると」

このテキストでは、音が続けて発音される場合も、交替する前のかたち（元の単語の形）をローマ字で表し、交替した後のかたち（変化した形）をカタカナで表しています。

アクセント

アイヌ語のアクセントには、次の2つの規則があります。

- (1)最初の音節が開音節のときは、2番目の音節が高く発音されます（ただし、一部例外があります）。

サ^パ sapá 「頭」 セ^タ setá 「犬」 ノ^ヤ noyá 「ヨモギ」

- (2)最初の音節が閉音節のときは、最初の音節が高く発音されます。

アイ^ヌ áynu 「人間」 パ^シクル páskur 「カラス」 ス^ンク súnku 「エゾマツ」

アクセントの規則には例外があります。以下の単語は、最初の音節が開音節で、アクセントが最初の音節にあるものです。このような単語は、個々にアクセントを覚える必要があります。

フ^チ húci 「祖母」 ミ^チ míci 「父」 ハ^ポ hápo 「母」 ト^キ túki 「酒杯」
レ^ラ réra 「風」 フ^ラ húra 「匂い」 ウ^ナ úna 「灰」 ウ^セイ úsey 「湯」

ステップ4 「～が…する」「～は～である」平叙文

(例文)

1. タント ウパシ アシ。
Tanto upas as.
今日 雪 降る
「今日は雪が降りました」
2. エカシ アツカシ。
Ekasi apkas.
おじいさん 歩く
「おじいさんが歩きます」
3. サパ スイエスイエ コロ キラ。
Sapa suyesuye kor kira.
頭 振る 振る 逃げる
「(あの人は) 頭を振って逃げました」
4. ソンノ アラクンネ セタ ネ。
Sonno arkunne seta ne.
本当に 真っ黒い 犬 である
「本当に真っ黒い犬です」

「～が…する」「～は～である」の言い方

「～が…する」「～が～である」のようなタイプの文を平叙文と呼びます。平叙文には、主に次のようなタイプがあります。

主語（名詞）＋自動詞

主語（名詞）＋目的語（名詞）＋他動詞

主語（名詞）＋補語（名詞）＋指定詞（**ネ ne**「～が～である」）

上記のように、主語や目的語などの名詞は動詞の前に置かれます。なお、アイヌ語では主語や目的語を示す「が」や「を」という言葉はつきません。また、動詞には「…する」「…した」のような現在と過去の区別はみられません。

ステップ5 「はい」「いいえ」で答える疑問文

(例文)

1. ピリカ プ ヘ アン?
Pirka p he an?
良い もの か ある
「良いのですか？」
2. ケレ アン ヤ?
Ker an ya?
靴 ある か
「靴はありますか？」
3. イチエン コロ クル オカ ヤ?
Icen kor kur oka ya?
お金 持つ 人 いる か
「お金を持っている人はいますか？」
4. アミプ ヘ?
Amip he?
着物 か
「着物 (のこと) ですか？」

「はい」「いいえ」で答える疑問表現

「～か」という疑問文にはいくつかのパターンがあります。以下では「はい」「いいえ」で答える疑問文について説明します。

- (1) 平叙文の文末を高く上げて発音すると、「はい」「いいえ」で答える疑問文になります。
- (2) 動詞の後にヤ **ya** 「～か?」という終助詞をつけて、「はい」「いいえ」で答える疑問文をつくることもできます。
- (3) 名詞の後にへ **he** 「～か」という終助詞をつけて、「はい」「いいえ」で答える疑問文がつくることもできます。

これらの疑問に答える場合、「はい」ならば**エ e**、「いいえ」ならば**ソモ somo**という言葉が用いられます。

ステップ6 疑問詞を用いた表現1

(例文)

1. トアン クル フンナ アン?
Toan kur hunna an?
あの 人 誰 ある
「あの人は誰ですか？」
2. タアンペ ヘマンタ アン?
Taanpe hemanta an?
これ 何 ある
「これは何ですか？」
3. エネ アプト ルイ ペ ヒナクン エアラパ?
Ene apto ruy pe hinakun e=arpa?
この 雨 激しい もの どこ へ あなたが・行く
「このように雨が激しいのあなたはどこへ行くのですか？」
4. ヘンパク イタンキ エエ?
Hempak itanki e=e?
いくつの お椀 あなたが 食べる
「あなたはお椀に何杯食べましたか？」
5. コタン オルン アラパ ル イナン ル ネ?
Kotan or un arpa ru inan ru ne?
村 ところ へ 行く 道 どの 道 である
「村へ行く道はどの道ですか？」

疑問詞を用いた表現 1

このステップでは、疑問名詞、疑問連体詞を用いた疑問文について説明します。これらの疑問詞は通常単独で使われることはなく、他の語句と組み合わせて用いられます。

- (1) 疑問名詞には以下の種類があります。これらの疑問名詞は動詞の前に置かれたり、終助詞を伴うことにより、様々な疑問の意味を表します。

フナ hunna 「誰」 ヘマンタ hemanta 「何」 フナク hunak / ヒナク hinak 「どこ」

- (2) 疑問連体詞には以下の種類があります。これらの疑問副詞は名詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

ヘンパク hepak 「いくつの」 イナン inan 「どちらの」

ステップ7 疑問詞を用いた表現2

(例文)

1. ヒナク ワ エク ワ アン ルウェ アン?
Hinak wa ek wa an ruwe an?
どこ から 来る て いる 様子 ある
「どこから来ているのですか」

2. フナクン エアラパ?
Hunak un e=arpa?
どこ へ あなたが・行く
「あなたはどこへ行くのですか」

3. ヘンパラ エエク?
Hempara e=ek?
いつ あなたが・来る
「あなたはいつ来たのですか」

4. マク エレヘ アン?
Mak e=rehe an?
どう あなたの・名前 ある
「あなたの名前は何というのですか」

疑問詞を用いた表現 2

このステップでは、疑問副詞を用いた疑問文について説明します。疑問副詞は通常単独で使われることはなく、他の語句と組み合わせて用いられます。

疑問副詞には以下の種類があります。これらの疑問副詞は動詞の前に置かれ、様々な疑問の意味を表します。

フナクワ hunak wa / ヒナクワ hunak wa 「どこから」
フナクン hunak un / ヒナクン hinak un 「どこへ」
ヘンパラ hembra 「いつ」 マク mak 「どう」

ステップ8 「…しない」 否定文

(例文)

1. ミムシ クル アナクネ ソモ イペ ヤッカ ミムシ ペ ネ。
Mimus kur anakne somo ipe yakka mimus pe ne.
太る 人 は (否定) 食べる ても 太る もの である
「太っている人は食事をしないでも太っているものです」
2. オムケカラ ヤク イェア コロカ オムケ パテク ソモ ネ ノイネ。
Omkekar yak ye a korka omke patek somo ne noyne.
風邪を引く と 言う た けれど 咳 ばかり (否定) である らしい
「風邪を引いたと言ったけれども咳だけではないようです」
3. ナ ル オッ タ ウパシ ル カ ソモ キ ノ アン。
Na ru or ta upas ru ka somo ki no an.
まだ 道 ところで 雪 溶ける も (否定) する て ある
「まだ道のところで雪は溶けてもいません」
4. ト ルプシ カ ソモ キ。
To rupus ka somo ki.
池 凍る も (否定) する
「池は凍りもしません」

「…しない」の言い方

「…しない」「～ではない」などの否定の表現には**ソモ** **somo** という言葉が用いられます。

ソモは副詞であり、動詞の前に置かれます。また、動詞の後ろに**カ ソモ キ** **ka somo ki**「…しない」というフレーズをつけて否定の意味を表すこともできます。**カ** **ka** は否定の焦点を示す副助詞です。

単語を覚えよう 1～様子を表す言葉 1～

- | | | | |
|-----|------|-------|---------|
| 1. | ピリカ | pirka | 「～が良い」 |
| 2. | ウェン | wen | 「～が悪い」 |
| 3. | ポロ | poro | 「～が大きい」 |
| 4. | ポン | pon | 「～が小さい」 |
| 5. | タンネ | tanne | 「～が長い」 |
| 6. | タッネ | takne | 「～が短い」 |
| 7. | ルウェ | ruwe | 「～が太い」 |
| 8. | アネ | ane | 「～が細い」 |
| 9. | ハンケ | hanke | 「～が近い」 |
| 10. | ト°イマ | tuyma | 「～が遠い」 |

さまざまなイロセ 1

沙流・静内地方

◇富川 年賀状の文

① タアン アシリ パソンノ ヌペツネノ

taan asir pa sonno nupetneno

この新しい年に心から慶びながら

アコシキリパ。サクパ オッタ

a=kosikirpa. sakpa or ta

向かいます。(今年の) 夏期と

ネノカネ ピリカスクナアン クニ

nenokane pirkasukup=an kuni

同様に健やかな暮らしをなさるよう

カムイ オルン クオンカミ ナ。

kamuy orun ku=onkami na.

カムイに祈念申し上げます。

(書き手:鍋沢元蔵さん)

※下線部分にあたる別の言い方としてアシリパアウツワシノケヤイコブンテクナ「新しい年を取り、本当に嬉しく思っています」という表現もあります。

◇東静内 年賀状の文

アシリパ オッタ ヌプルカンピ

asir pa or ta nupurkamp

新年にあたっての尊いお手紙(賀状)に

パセノポ クオンカミ ナ。

pasenopo ku=onkami na.

丁重に拝礼します。

ピリカ アシリ パアノシキル キワ

pirka asir pa an=osikiru ki wa

良い年をお迎えになり

イワンケアン ワ ピリカモンライケアン クニ

iwanke=an wa pirkamonrayke=an kuni

お達者で、良いお仕事をなさいますように

クオンカミ ナ。パセノポ イヤイライケレ。

ku=onkami na. pasenopo iyayraykere.

ご祈念申します。誠にありがとうございます。

(書き手:佐々木太郎さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

ステップ9 「～しなさい」 命令文 1

(例文)

1. ト°ナシノ ホク。
Tunasno hok.
早く 買う
「早く買いなさい」
2. ホクレ サマ ウン アラパ アラパ。
Hokure sama un arpa arpa.
さあ早く そば へ 行く 行く
「さあ早くそばへ行きなさい行きなさい」
3. スイ イェ ハニ。
Suy ye hani.
また 言う なさい
「もう一度言いなさい」
4. ピリカノ ポイソン エプンキネ ハニ。
Pirkano poyson epunkine hani.
よく 子供 守る なさい
「しっかり子供のお守りをしなさい」

「…しなさい」の言い方1

「…しなさい」という命令文には、いくつかのパターンがあります。

- (1)命令の表現には、動詞をそのまま用いることができます。ただし、命令の表現においては、命令する相手を表す人称接辞はつきません。例えば、**エヌカラ e=nukar**「あなたが見る」という表現は、「見なさい」という命令の意味では通常用いられません。
- (2)念を押すような命令の表現には、**ハニ hani**「…しなさい」という終助詞が用いられます。

ステップ10 「…しなさい」 命令文 2

(例文)

1. ナム ワッカ アニ エウオンネ ヤン。
Nam wakka ani ewonne yan.
冷たい 水 で 顔を洗う なさい
「冷たい水で顔を洗いなさい」
2. ケマエウエン ヒ ネ ヤクン イサ オルン ト°ラ ヤン。
Kemaewen hi ne yakun isa or un tura yan.
足が悪い の である ならば 医者 ところ へ 連れる なさい
「足が悪いのなら医者のところへ連れていきなさい」
3. クイタク ヒ ピリカノ ヌ ヤナニ。
Ku=itak hi pirvano nu yan hani.
私が・話す こと よく 聞く なさい ね
「私が言うことをよく聞きなさい」
4. ウコイソイタク カ キ コロ オカ ヤナニ。
Ukoysoytak ka ki kor oka yan hani.
話し合い も する ながら いる なさい ね
「話し合いでもしながらいなさい」

「…しなさい」の言い方2

このステップでは、複数の相手に対する命令表現、丁寧な命令の表現について説明します。

- (1) 複数の相手に対する命令には、**ヤン yan** 「…しなさい」という終助詞が用いられます。なお、単数と複数の区別がある自動詞の場合、ヤンは複数形の動詞の後につけられます（例：**アラキ ヤン arki yan** 「来なさい（**アラキ**は**エク**の複数形）」）。
- (2) **ヤン**を単独の相手に対して用いると、丁寧な命令の表現となります。
- (3) **ヤン**との**ハニ**は、組み合わせて用いられることがあります。その場合は、**ヤナニ yan hani** という順序になります。

ステップ11 「…するな」 禁止文

(例文)

1. テ ワノ イテキ チッ。
Te wano iteki cis.
ここ から (禁止) 泣く
「これからは泣かないでください」
2. イテキ オイラ ヤン。
Iteki oyra yan.
(禁止) 忘れる なさい
「忘れないでください」
3. イテキ トランネ ヤン。
Iteki toranne yan.
(禁止) 怠ける なさい
「怠けないでください」
4. ウタサロッキ イテキ キ ヤン。
Utasaroski iteki ki yan.
仲たがい (禁止) する なさい
「仲たがいをしてはいけません」

「…するな」の言い方

「…するな」という禁止の表現には**イテキ iteki**という言葉が用いられます。

イテキは副詞であり、動詞の前に置かれます。なお、命令の表現と同様に、禁止の表現においても聞き手を表す人称接辞はつけられません。

また、禁止の表現にも、**ヤン yan** や **ハニ hani** などの命令を表す終助詞をつけることができます。

ステップ12 「私が」「あなたが」 1人称・2人称単数主格

(例文)

1. カラパ クニ クラム コロ カン。
 K=arpa kuni ku=ramu kor k=an.
 私が・行く ように 私が・思う ながら 私が・いる
 「私は行こうと思っています」

2. ノンノ クヌカラ コロ ケラマス。
 Nonno ku=nukar kor k=eramasu.
 花 私が・見る と 私が・好ましい
 「私は花を見ると楽しい気持ちになります」

3. ヘマンタ エヌカラ ワ エミナ コロ エアン？
 Hemanta e=nukar wa e=mina kor e=an?
 何 あなたが・見る て あなたが・笑う ながら
 「あなたは何を見て笑っているのですか」

4. エサッテク ナ ポロンノ イペ。
 E=sattek na poronno ipe.
 あなたが・痩せる よ たくさん 食事する
 「あなたは痩せているよ、たくさん食べなさい」

「私が」「あなたが」の表現

アイヌ語の動詞は、人称によって形が変化します。人称を表す言葉は動詞に付属するものであり、人称接辞と呼ばれます。人称接辞には、主語を表すもの（主格人称接辞）と目的語を表すもの（目的格人称接辞）があります。このステップでは、「私が（1人称単数主格）」「あなたが（2人称単数主格）」の表現について説明します。

- (1)「私が…する」と表現する場合には、動詞の前にク ku=「私が」をつけます。ク ku= はア、ウ、エ、オで始まる動詞の前について k= になります。
- (2)「あなたが…する」と表現する場合には、動詞の前にエ e=「あなたが」をつけます。
- (3)アイヌ語では、文の中の全ての動詞に人称接辞がつきます（例文参照）。日本語の「私が（は）」「あなたが（は）」という言葉とは使い方が異なりますので、注意する必要があります。
- (4)動詞の前にク ku= やエ e= がつくと、アクセントが移動する場合があります。

モコ□ mokór 「～が眠る」 → クモコ□ ku=mókor 「私が眠る」

アヌ anú 「～が～を置く」 → カヌ k=ánu 「私が～を置く」

ヌカラ nukár 「～が～を見る」 → エヌカラ e=núkar 「あなたが～を見る」

ステップ13 「私たちが」「あなたたちが」 1人称・2人称複数主格

(例文)

1. タネ チイエ クス ネ。
 Tane ci=ye kusu ne.
 今 私たちが・言う ために である
 「今私たちが言います」

2. チョピッタ シネウエアシ クス ネ ナ。
 C=opitta sinewe=as kusu ne na.
 私たちが・すべて 訪問する・私たちが ために である よ
 「私たちみんなで訪ねることにします」

3. エチモコロ ワ エチオカ ルウエ ヘ アン？
 Eci=mokor wa eci=oka ruwe he an?
 あなたたちが・眠る て あなたたちが・いる 様子 か ある
 「あなたたちは眠っていたのですか」

4. エチヌチマシヌ シリ。
 Eci=nucimasnu siri.
 あなたたちが・手早い 様子
 「あなたたちは仕事が達者ですね」

「私たちが」「あなたたちが」の表現

このステップでは、「私たちが（1人称複数主格）」「あなたたちが（2人称複数主格）」の表現について説明します。なお、「私たちが」の表現には、聞き手を含む場合（包括的1人称複数主格）と聞き手を含まない場合（除外的1人称複数主格）の二通りの表現があります。

- (1) 聞き手を含まずに「私たちが…する」と表現する場合には、動詞に**チ ci=**「私たちが」または**アシ=as**「私たちが」をつけます。**チ ci=**は他動詞の前につく形です。**アシ=as**は自動詞の後ろにつく形です。なお、**チ ci=**はア、ウ、エ、オで始まる動詞の前につくと**チ c=**になります。
- (2) 「あなたたちが…する」と表現する場合には、動詞の前に**エチ eci=**「あなたたちが」をつけます。
- (3) 単数・複数の区別がある自動詞の場合、**アシ=as**や**エチ eci=**は複数の形につきます。
- (4) 他動詞の前に**チ ci=**がつくと、アクセントが移動する場合があります。また、自動詞の後ろに**アシ=as**がつくと、**アシ=as**にもアクセントが置かれます。

ヌカラ nukár 「～が～を見る」 → チヌカラ ci=núkar 「私たちが～を見る」

アヌ anú 「～が～を置く」 → チヤヌ c=ánu 「私たちが～を置く」

ホッケ hótke 「～が寝る」 → ホッケアシ hótke=ás 「私たちが寝る」

- (5) 動詞の前に**エチ eci=**がつく場合、アクセントは移動しません。

ヌカラ nukár 「～が～を見る」 → エチヌカラ eci=nukár 「あなたたちが～を見る」

ステップ14 「私たちが」 包括的 1人称複数主格

(例文)

1. エイガ アヌカラ クス パイエアン ロ。
 Eiga a=nukar kusu paye=an ro.
 映画 私たちが・見る ために 行く・私たちが しよう
 「映画を見に行きましょう」

2. チェブ アウク ワ アオピッタ アウコウサライエ。
 Cep a=uk wa a=opitta a=ukousaraye.
 魚 私たちが・捕る て 私たちが・すべて 私たちが・分ける
 「私たちは魚を捕って全員で分けました」

3. ウカット°イマノ ウヌカラン。
 Ukattuymano unukar=an.
 互いに遠く離れて 会う・私たちが
 「私たちはずいぶん久しぶりに会いました」

4. チブ アオ ワ アッサブ アニ ペットモト°イエアン。
 Cip a=o wa assap ani pettomotuye=an.
 舟 私たちが・乗る て 櫂 で 川を渡る・私たちが
 「私たちは舟に乗って櫂で川を渡りました」

聞き手を含む「私たちが」の表現

このステップでは、聞き手を含む「私たちが」の表現（包括的1人称複数主格）について説明します。

- (1) 聞き手を含めて「私たちが…する」と表現する場合には、動詞に**ア a=**「私たちが」、または**アン =an**「私たちが」をつけます。**ア a=**と**アン an=**は他動詞の前につく形です。**アン =an**は自動詞の後ろにつく形です。
- (2) 単数・複数の区別がある自動詞の場合、**アン =an**は複数の形につきます。
- (3) 他動詞の前に**ア a=**がつく場合、アクセントは移動しません。一方、自動詞の後ろに**アン =an**がつくと、**アン =an**にもアクセントが置かれます。

ヌカラ nukár 「～が～を見る」 → アヌカラ a=nukár 「私たちが～を見る」

ホッケ hótke 「～が寝る」 → ホッケアン hótke=án 「私たちが寝る」

ステップ15 「私を」「あなたを」目的格人称

(例文)

- ヤイサムネ エアン チキ エンカスイ。
 Yaysamne e=an ciki en=kasuy.
 何もなく あなたが・いる ならば 私を・手伝う
 「何もすることがないのなら私を手伝ってください」
- カント コロ エカシ ウンカ オピウキ ワ ウンコレ ヤン。
 Kanto kor ekasi un=ka opiwki wa un=kore yan.
 天 持つ 祖翁 私たちの・上 救う て 私たちに・与える なさい
 「天を守る神、私たちを助けてください」
- パセ トノ ウタラ イアムキリ。
 Pase tono utar i=amkir.
 尊い 殿 たち 私たちを・見覚えがある
 「立派な人々が私たちを見覚えています」
- アエカシパオツテ ヒ ネノ エイキ フ ネ ナ。
 A=e=kaspaotte hi neno e=iki p ne na.
 人が・あなたに・命じる こと のように あなたが・する もの である よ
 「あなたは言いつけられたようにしなければなりません」
- エチアフナテレ クル カ イサム ルウエ ネ ナ。
 Eci=ahuptere kur ka isam ruwe ne na.
 あなたたちを・中に入れさせる 人 も 無い 様子 である よ
 「あなたたちを出迎える人もいません」

「私を」「あなたを」などの表現

このステップでは、「私を（1人称単数目的格）」「あなたを（2人称単数目的格）」などの表現（目的格人称接辞）について説明します。

- (1)「私を（に）…する」と表現する場合には、他動詞の前に**エン en**＝「私を（に）」をつけます。
- (2)聞き手を含めずに「私たちを（に）…する」と表現する場合には、他動詞の前に**ウン un**＝「私たちを（に）」をつけます。
- (3)聞き手を含めて「私たちを（に）…する」と表現する場合には、他動詞の前に**イ i**＝「私たちを（に）」をつけます。
- (4)「あなたを（に）…する」と表現する場合には、他動詞の前に**エ e**＝「あなたを（に）」をつけます。
- (5)「あなたたちを（に）…する」と表現する場合には、他動詞の前に**エチ eci**＝「あなたたちを（に）」をつけます。

ステップ16 「私があなただを」「あなたが私を」 人称の組み合わせ

(例文)

1. クニヒ フツネ ワ エチレウシレ エアイカフ。
 K=unihi hutne wa eci=rewsire eaykap.
 私の・家 狭い て 私があなたを・泊める できない
 「私の家は狭くてあなたを泊めることができません」

2. エアラパ ルスイ ウシケ ウン エチト°ラ クシ ネ ナ。
 E=arpa rusuy uske un eci=tura kus ne na.
 あなたが・行く したい ところ へ 私があなたを・連れる ために である よ
 「あなたが行きたいところへ私はあなたを連れていきます」

3. クサハ エネ ワ エネ エンコイソイタク。
 Ku=saha e=ne wa ene en=koysoytak.
 私の・姉 あなたが・である て このように あなたが私に・話をする
 「あなたは私の姉であって、このように私に話をしてくれました」

4. エエク ワ ウンコレ。
 E=ek wa un=kore.
 あなたが・来る て あなたが私たちに・与える
 「あなたが私たちのために来てくれました」

「私があなを」「あなが私を」などの表現

「私があなを…する」「あなが私を…する」などは、主格と目的格の人称接辞を組み合わせて表現します（主格目的格人称変化と呼ばれます）。主格と目的格の組み合わせは、方言による違いが大きく、詳細が不明な地域もあります。

以下の表は沙流方言の人称の組み合わせです。縦の列は主格の人称、横の列は目的格の人称を示しています。主格人称と目的格人称の単純な組み合わせからは予測できない不規則な形が用いられる場合がありますので、注意が必要です（*はそのような組み合わせがないことを示しています）。

目的格 \ 主格	1 人称単数	除外的 1 人称複数	包括的 1 人称複数	2 人称単数	2 人称複数	3 人称
1 人称単数	*	*	*	エチ・ eci=	エチ・ eci=	ク・ ク ku= k=
除外的 1 人称複数	*	*	*	エチ・ eci=	エチ・ eci=	チ・ チ ci= c=
包括的 1 人称複数	*	*	*	*	*	ア・ a=
2 人称単数	エン・ en=	ウン・ un=	*	*	*	エ・ e=
2 人称複数	エチ・エン・ eci=en=	エチ・ウン・ eci=un=	*	*	*	エチ・ eci=
3 人称	エン・ en=	ウン・ un=	イ・ i=	エ・ e=	エチ・ eci=	

単語を覚えよう2 ～様子を表す言葉2～

1.	パセ	pase	「重い」
2.	コシネ	kosne	「軽い」
3.	リ	ri	「高い」
4.	ラム	ram	「低い」
5.	イロンネ	ironne	「厚い」
6.	カパラ	kapar	「薄い」
7.	セセク	seseq	「熱い」
8.	ヤム	yam	「冷たい」
9.	ポツケ	popke	「暖かい」
10.	メアン	mean	「寒い」

さまざまなアイヌ語 2

塘路・釧路地方

◇塘路 山で大木があったときの祈り

シリコロ カムイ、ウェンメノコ チネヤッカイキ
sirkorkamuy, wen menoko ci=ne yakkayki
立木の神よ、不束な女ですけれど

タンパク アニ エチノミアンナ。
tanpaku ani eci=nomi=an na.
タバコによって貴方を祭りますよ。

イカシッカマワエンコレ。
ikasikkama wa en=kore.
見守ってください。

(語り手:伊藤つるさん・吉田はるさん)

☆この唱えごとを掲載するにあたり更科源蔵『コタン探訪帳』No. 10を参照しました。

◇釧路千代の浦 アイヌ語のよる手紙

カンピ アニ クソンコオマンテ ナ。 エコタン*タ アイヌ オプッタノ
kampi ani ku=sonkoomante na. e=kotan ta aynu oputtano
紙によって言葉を送りますよ。 あなたの村では人々みな

ウイワンケレ ワ アンナ。 チコタン* アナッネ アイヌ オプッタノ
uywankere wa an a? ci=kotan anakne aynu oputtano
互いに達者でいますか。 私の村では、人々みな

ウイワンケレ ワ オカイ エラムアン ワ イコレ。 エマチ ウサ
uywankere wa okay kusu eramuan wa i=kore. e=maci usa
互いに達者で暮らしていますから そう思って下さい。あなたの奥さんも

エポ ウサ イワンケ ワ アンナ。
e=po usa iwanke wa an a?
あなたのお子さんもお達者ですか。

(書き手:山本順吉さん)

☆釧路アイヌ文化懇話会『アイヌ・モシリー幻のアイヌ語誌復刊』から転載しました。転載にあたって一部の表記を改変しました。ローマ字・訳は北原によります。

※コタヌ kotanu という場合もあります。沙流方言、十勝方言などでは、このような場合常にコタヌになります。

ステップ17 尊敬の表現と不定人称

(例文)

1. アシヌマ ヤイカタ アカラ ヤク マク ネ ハウエ？
Asinuma yaykata a=kar yak mak ne hawe?
あなた 自分で あなたが・作ると どう である の
「あなたのご自身で作ったらどうですか？」
2. アオカ ヤイカタ アカラ ルウエ？
Aoka yaykata a=kar ruwe?
あなた 自分で あなたが・作る の
「あなたのご自身で作ったのですか？」
3. トアン クル ナ ポン コロカ ポロ クル ネノ アヌカラ。
Toan kur na pon korka poro kur neno a=nukar.
あの 人 まだ 小さい けれど 大きい 人 のように 私・見る
「あの子はまだ小さいけれど大人みたいに見えます」
4. ノクンネイワノ ホブンパアン コロ ト°マシヌアン。
Nokunneywano hopunpa=an kor tumasnu=an.
夜明けに 起き上がる・人が と 健康である・人が
「朝早くから起きると元気がでます」

尊敬の表現

アイヌ語では、人称接辞やある種の名詞を用いて尊敬の表現が組み立てられます。このステップでは、主に人称接辞による尊敬の表現について説明します。

- (1) 聞き手に対する尊敬を表す場合には、**ア a=** (**アン an=**)、**アン =an**、**イ i=** という人称接辞が用いられます。
- (2) 人称代名詞**アシヌマ asinuma**、**アオカ aoka** が尊敬の表現で用いられることがあります。人称代名詞についてはステップ18で取り上げます。

不定人称

包括的1人称複数の **=(an=)**, **=an**, **i=** は、「一般に人が(を)、誰かが(を)」のような不特定の意味を表すことがあります。これを不定人称と呼びます。

ステップ18 「私」「あなた」 人称代名詞

(例文)

1. カニ カラパ クス ネ ナ ハニ。
 Kani k=arpa kusu ne na hani.
 私 私が・行く ために である よ ね
 「私が行きますからね」

2. チョカ アナク ウヌ カ オナ カ チサク。
 Coka anak unu ka ona ka ci=sak.
 私たち は 母 も 父 も 私たちが・
 欠く
 「私たちには母も父もいません」

3. エアニ ヘム エチコレ ナ。
 Eani hem eci=kore na.
 あなた も 私があなたに・与える よ
 「あなたにもあげます」

4. エチオカ カ エチタクパ。
 Ecioka ka eci=takpa.
 あなたたち も 私があなたたちを・招く
 「あなたたちも呼びに来ました」

人称代名詞

人称代名詞は日本語の「私」や「あなた」にあたるものです。ただし、アイヌ語は人称接辞を用いて人称の関係を表現しますので、人称代名詞は強調など限られた場合にしか用いられません。

人称代名詞を用いると、主語や目的語を強調する表現となります（例文参照）。以下に沙流方言の人称代名詞のリストをあげておきます

	単数	複数
1人称	カニ kani	チヨカ coka（除外的） アオカ aoka（包括的）
2人称	エアニ eani アシヌマ asinuma（敬称） アオカ aoka（敬称）	エチオカ ecioka
3人称	シヌマ sinuma	オカ oka

ステップ19 動詞の単数・複数 1

(例文)

- ヘマンタ ムヤンキ クコロ ワ カラパ？
 Hemanta muyanki ku=kor wa k=arpa?
 何 土産 私が・持つ て 私が・行く
 「何をお土産に持っていきましょうか？」
- ニサッタ トレナタアン クス パイエアン ロ。
 Nisatta turepta=an kusu paye=an ro.
 明日 ウバユリ採りをする・私たちが ために 行く・私たちが しよう
 「明日ウバユリ採りに行きましょう」
- レ チセ アシ ワ アン。
 Re cise as wa an.
 三つの 家 建つ て いる
 「三軒の家が建っています」
- ピリカ チセ ポロンノ ロシキ ワ オカ。
 Pirka cise poronno roski wa oka.
 美しい 家 たくさん 建つ して いる
 「美しい家がたくさん建っています」

単数と複数で形が全く異なる動詞

アイヌ語の動詞の一部には、単数と複数の区別をもつものがあります。単数・複数の区別をもつ動詞のなかには、単数形と複数形で全く形の異なるものがあります。このようなタイプの動詞は、数は少ないのですが基本的な動詞が多く、個々に記憶する必要があります。

以下に自動詞の例をあげます。自動詞の複数形は主語が複数であることを表します。

- ア a (単数) / ロク rok (複数) 「～が座る」
- アン an (単数) / オカ oka (複数) 「～がある、いる」
- アシ as (単数) / ロシキ roski (複数) 「～が立つ」
- エク ek (単数) / アラキ arki (複数) 「～が来る」
- アラパ arpa (単数) / パイエ paye (複数) 「～が行く」
- オマナン omanan (単数) / パヨカ payoka (複数) 「～が歩き回る」

以下に他動詞の例をあげます。なお、基本的に他動詞の複数形は目的語が複数であることを表します (例文)。

- アシ asi (単数) / ロシキ roski (複数) 「～が～を立てる」
- ウク uk (単数) / ウイナ uyna (複数) 「～が～を取る」

ステップ20 動詞の単数・複数 2

(例文)

1. アフン ワ シニ。
 Ahun wa sini.
 入る て 休む
 「入って休みなさい」

2. アフア ワ シニ ヤン。
 Ahup wa sini yan.
 入る て 休む なさい
 「入って休みなさい」

3. シラオイ ワノ バス コ ワ トマコマイ タ クラン。
 Siraoi wano basu k=o wa Tomakomai ta ku=ran.
 白老 から バス 私が・乗る て 苦小牧 で 私・下りる
 「私は白老からバスに乗って苦小牧で下りました」

4. ナイ オッタ ラパ パ ワ イチャラパ ネ ヤ チセ
 Nay or ta rap pa wa icarpa ne ya cise
 沢 ところに 下る (複数) て 供物まき である か 家
 ピシカン ペカ イチャラパ パ。
 piskan peka icarpa pa.
 周囲 に 供物まき (複数)
 「沢に下って供物まきをしたり、家のまわりに供物まきをしたりしました」

ン -n で単数形、プ -p で複数形がつくられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろにン -n をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにプ -p をつけて複数形がつくられます。

このようなタイプの動詞は、基本的に移動の意味を表わす自動詞に限られています。以下に例をあげます。

アフン ahu-n (単数) / アフプ ahu-p (複数) 「～が入る」

ラン ra-n (単数) / ラプ ra-p (複数) 「～が下る」

サン sa-n (単数) / サプ sa-p (複数) 「～が(川下へ)下る」

リキン riki-n (単数) / リキプ riki-p (複数) 「～が上る」

ヤン ya-n (単数) / ヤプ ya-p (複数) 「～が上陸する」

ステップ21 動詞の単数・複数3

(例文)

- カリキキ ワ クホユブ アイネ ホシキ アラパ プ コシコニ。
 K=arikiki wa ku=hoyupu ayne hoski arpa p k=oskoni.
 私が・頑張る て 私が・走る て 先に 行く もの 私が・追いつく
 「私は頑張って走って、先に行った人に追いつきました」
- ネ キヤンネ オッカイポ ポニウネ オッカイポ ウウェコホピ
 Ne kiyanne okkaypo poniwne okkaypo uwekohopi
 その 年長である 少年 年下である 少年 別々に
 コタン ケシ ウン コタン パ ウン ホユッパ。
 kotan kes un kotan pa un hoyuppa.
 村 下手 へ 村 上手 へ 走る
 「その年長の少年と年下の少年は、別々に村の下手へと村の上手へと走りました」
- イテキ エテケヘ ト°イエ。
 Iteki e=tekehe tuye.
 (禁止) あなたの・手 切る
 「あなたの手を切らないようにしなさい」
- ニ ヌプル マヌ アイヌ ト°イパ ワ イサムパ。
 Ni nupur manu aynu tuypa wa isampa.
 木 霊力ある という 人間 切る て 無い
 「木がえらいといっても人間が切ってしまうです」

母音で単数形、パ -pa で複数形がつけられる動詞

動詞のなかには動詞の語幹の後ろに母音をつけて単数形をつくるものがあります。そのような動詞では、語幹の後ろにパ -pa をつけて複数形がつけられます。

このタイプの動詞は比較的多数みられます。自動詞の例を以下にあげます。

ホプニ hopun-i (単数) / ホブンパ hopun-pa (複数) 「～が起きる」

ホシピ hosip-i (単数) / ホシッパ hosip-pa (複数) 「～が帰る」

ホユプ hoyup-u (単数) / ホユッパ hoyup-pa (複数) 「～が走る」

他動詞の例を以下にあげます。なお、他動詞の複数形は、目的語の数を表すのが一般的です。

ト°イェ tuy-e (単数) / ト°イパ tuy-pa (複数) 「～が～を切る」

スイェ suy-e (単数) / スイパ suy-pa (複数) 「～が～を揺らす」

レウエ rew-e (単数) / レウパ rew-pa (複数) 「～が～を曲げる」

ペレ per-e (単数) / ペレパ per-pa (複数) 「～が～を割る」

ステップ22 自動詞・他動詞・複他動詞

(例文)

- シケトクナワノ アエラミシカリ オッカイポ アフン。
 Siketoknawano a=eramiskari okkaypo ahun.
 一度も見たことがなく 人が・知らない 少年 入る
 「一度も見たことがない知らない少年が入ってきました」
- インネ ウタラ アラキ ナ。
 Inne utar arki na.
 大勢 人々 来る よ
 「大勢の人々が来ましたよ」
- ネア キムンカムイ シンキプ ネ クス コイスム タクタク エクパ カネ。
 Nea kimunkamuy sinki p ne kusu koysum taktak ekupa kane.
 その クマ 疲れる ものである から 泡 かたまり くわえる (程度)
 「そのクマは疲れているものですから、泡のかたまりを口にくわえています」
- エミピヒ イテキ チャッチャリ ノ ウカオ ワ アヌ。
 E=mipihi iteki catcari no ukao wa anu.
 あなたの・着物 (禁止) 散らす て しまう て 置く
 「あなたの服を散らかさないでしまっておきなさい」
- コンル ララク ナ ウナ オチャッチャリ ワ アヌ。
 Konru rarak na una ocatcari wa anu.
 氷 つるつるしている ぞ 灰 散らす て 置く
 「氷がつるつるしているから灰をふりかけておきなさい」

自動詞（1項動詞）

これまでのステップでも、自動詞や他動詞という用語が出てきました。これらの動詞の違いは、いくつの名詞と結びつくかという点にあります。動詞が名詞と結びつくことを、「動詞が名詞を取る」と表現することもあります。自動詞は1つの名詞と結びつき、この名詞が主語（動作の主体となるもの）になります。

自動詞の前には空の箱が1つあって「□が…する」のような格好になっているとイメージしてください。この箱には主語にあたる名詞が入ります。このように、自動詞は1つの名詞と結びつくことから、「1項動詞」と呼ばれることもあります。

他動詞（2項動詞）

他動詞は主語の他にもう1つの名詞と結びつき、これが目的語（動作の対象となるもの）になります。

他動詞の前には、主語の箱に加えてもうひとつ目的語の箱があるとイメージしてください。他動詞は2つの名詞と結びつくことから、「2項動詞」と呼ばれることもあります。アイヌ語では、自動詞と他動詞の区別が厳密におこなわれます。

日本語では、主語に「～は、～が」を、目的語は「～を、～に」といった格助詞が用いられますが、アイヌ語では用いられません。名詞は主語・目的語の順に並べられるのが一般的ですが、目的語・主語の順に並べられることもあります。

複他動詞（3項動詞）

他動詞のなかには、目的語にあたる名詞を2つ取る動詞があります。これを複他動詞（3項動詞）と呼びます。

ステップ23 「たくさん」「少し」 副詞

(例文)

1. トウキョウ オッ タ アナクネ アヌカラ ウシケ ポロンノ アン。
 Tokyo or ta anakne a=nukar uske poronno an.
 東京 ところ に は 人が・見る ところ たくさん ある
 「東京には見るところがたくさんあります」

2. ポンノ シニアン ロ。
 Ponno sini=an ro.
 少し 休む・私たちが しよう
 「少し休みましょう」

3. エピリカ ヒ アナクネ ソモ エシニ ノ エネヅキ ワ クス ネ。
 E=pirka hi anakne sono e=sini no e=nepki wa kusu ne.
 あなたが・良い こと は (否定) あなたが・休むて あなた・働くしてこそ である
 「あなたが立派になったのは、休まずに働いたからです」

4. ネイタ カ クルマ アニ モシリ エピッタ パヨカアン
 Neyta ka kuruma ani mosir epitta payoka=an
 いつ か 車 で 国土 すべて 歩き回る・私たちが
 ワ インカラアン ロ。
 wa inkar=an ro.
 て 見る・私たちが しよう
 「いつか車で世界中を回ってみましょう」

副詞のはたらき

このステップでは主として副詞を使った表現を取り上げます。副詞とは日本語の「たくさんある」「とてもはやい」などのように、動詞の前に置かれて動作・状態のあり方を説明する言葉です。

- (1) 副詞のなかには、動詞にノ **-no** という形をつけて規則的につくられるものがあります（例：**ポン pon**「～が小さい」→**ポンノ ponno**「少し」、**ピリカ pirka**「～が良い」→**ピリカノ**「良く」、**トイマ tuyma**「～が遠い」→**トイマノ tuymano**「遠く」）。
- (2) 「…しない」という否定の表現には**ソモ somo**という副詞が、「…するな」という禁止の表現には**イテキ iteki**という副詞が用いられます。
- (3) 副詞のなかには、名詞の後に置かれて「～に、～で」のような格助詞にあたる役割をもつものがあります。このような副詞は後置副詞と呼ばれます。

ステップ24 位置関係の表現 1

(例文)

1. シルクンネ エトク タ クホシピ ナ。
Sirkunne etok ta ku=hosipi na.
日が暮れる 前 に 私が・帰る よ
「日が暮れる前に私は帰りますよ」
2. タアン クル イテキ コッチャケ クシ ノ オシマケ ペカ クシ。
Taan kur iteki kotcake kus no osmake peka kus.
この 人(禁止) 前 通る て 後ろ を 通る
「この人の前を通らないで後ろを通りなさい」
3. ツクエ カ タ ホン アン。
Cukue ka ta hon an.
机 上 に 本 ある
「机の上に本があります」
4. ララ チョロポッケ タ シク オ。
Rar corpokke ta sik o.
まゆ 下 に 目 ある
「まゆの下に目があります」

位置関係を表す名詞

「前」「後」のような位置関係を表す名詞を位置名詞といいます。位置名詞には短形と長形との区別と呼ばれる二種類の形があります。以下に例をあげます。

エトク etok (短形) / エトコ etoko (長形) 「前」

オシマク osmak (短形) / オシマケ osmake (長形) 「後」

カ ka (短形) / カシケ、カシケ kas(i)ke (長形) 「(接触して) 上」

チヨロポク corpok (短形) / チヨロポッケ、チヨロポッケ corpok(i)ke (長形)
「下」

一般に、短形は基準となる名詞との関係が密接な場合に使用されます。また、長形は基準となる名詞が省略されている場合などに使用されます。ただし、短形と長形の区別についてはまだ十分に明らかではない面もあります。

単語を覚えよう3 ～動作を表す言葉1～

- | | | | |
|-----|------|--------|---------|
| 1. | シノッ | sinot | 「遊ぶ」 |
| 2. | マ | ma | 「泳ぐ」 |
| 3. | アツカシ | apkas | 「歩く」 |
| 4. | ホユプ | hoyupu | 「走る」 |
| 5. | モコロ | mokor | 「寝る」 |
| 6. | モシ | mos | 「目を覚ます」 |
| 7. | マカ | maka | 「開く」 |
| 8. | アシ | asi | 「閉まる」 |
| 9. | アフン | ahun | 「入る」 |
| 10. | アシン | asin | 「出る」 |

さまざまなイロセ3

静内・十勝地方

◇新年の祈り

アシリパノミ アンキ シリ ネ ナ。

asirpanomi an=ki siri ne na.

新年の祈りをいたしますよ

ウロクテ カムイ ウタリ

urokte kamuy utari

いらっしゃいます神々よ、

アムキリワ ウンコレ キヤン！

amkir wa un=kore ki yan!

ご承知ください。

クコロ ウタリ ピリカ モンライケ キクニネ、

ku=kor utari pirka monrayke ki kunine,

私の親族がつつがなく働けますように、

セレマク ウシワ ウンコレ キヤン！

sermak us wa un=kore ki yan!

お見守りください。

(語り手:葛野辰次郎さん)

☆この言葉を掲載するにあたり『平成 11 年度アイヌ語ラジオ講座テキスト』vol.4 を参照しました。

◇芽室太 船を下ろす時の歌

アリ アン ペシタ メナスン テレケ

ari an pe sta menas un terke

これこそまさに 東の踊り

メナスン リムセ オカイ ペネネ

menas un rimse okay pe ne ne.

東の舞 まことだぞ

アンホーホイ ハホイ！

an ho hoy ha hoy!

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第 8 号 下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009 年）を参照しました。

ステップ25 位置関係の表現 2

(例文)

1. エンサム オウペカレ ワ エンコレ。
En=sam oupekare wa en=kore.
私の・傍ら まっすぐにする て 私に・与え
る
「私に従ってください」
2. エンオシマケ タ ア。
En=osmake ta a.
私の・後ろ に 座る
「(その人は) 私の後ろに座りました」
3. ウンコッチャ クシ ワ アラパ ワ イサム。
Un=kotca kus wa arpa wa isam.
私たちの・前 通る て 行く て 無い
「私たちの前を通って行ってしまいました」
4. エペナケ ペカ クペッカス。
E=penake peka ku=petkasu.
あなたの・川上 を 私・川を渡る
「あなたの川上側を私は渡ります」

位置名詞の人称

このステップでは、人称接辞と位置名詞の組み合わせについて説明します。位置名詞の基準点を表す場合には、目的格人称接辞が用いられます。

- (1)「私の前」などと表現する場合には、位置名詞の前に**エン en**＝「私を（に）」をつけます。
- (2)聞き手を含めずに「私たちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**ウン un**＝「私たちを（に）」をつけます。また、聞き手を含めて「私たちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**イ i**＝「私たちを（に）」をつけます。
- (3)「あなたの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エ e**＝「あなたを（に）」をつけます。
- (4)「あなたたちの前」などと表現する場合には、他動詞の前に**エチ eci**＝「あなたたちを（に）」をつけます。

ステップ26 場所の表現

(例文)

1. ペツ オルン アラパクナク ラム アコロカ アプト アシワ ホシピ。
Pet or un arpa kunak ramu a korka apto as wa hosipi.
川 ところへ 行く と 思う たけれど 雨 降るて 戻る
「川へ行こうと思ったけれど、雨が降ってきたので戻りました」
2. カムイ オッタ ウト°ラ オカアン ペ ネ ルウェネ ナ。
Kamuy or ta utura oka=an pe ne ruwe ne na.
神 ところで 一緒に いる・私たちがもの である 様子 であるよ
「神々のところで私たちは一緒にいるものなのですよ」
3. ク Yupihi アナク ポロ ガッコウ オロマ ワ エヤイコブンテク
Ku=yupihi anak poro gakko or oma wa eyaykopuntek
私の・兄 は 大きい 学校 ところ 入る て 喜ぶ
カト°ン キ。
katun ki.
様子 する
「私のお兄さんは大きな学校に入って嬉しそうな様子です」
4. アト°イ オルン チェプ カ ポロンノ オカ。
Atuy or un cep ka poronno oka.
海 ところ いる 魚 も たくさん いる
「海にいる魚もたくさんいる」

場所の表現

アイヌ語の格助詞は、位置名詞の後につけられます。したがって、「人」や「神」、「川」のような普通名詞には、格助詞を直接つけることはできません。そこで、普通名詞に格助詞をつける場合には、位置名詞を用いて、普通名詞＋位置名詞＋格助詞のように表現します。

場所を目的語にする動詞

動詞の中には「前」、「後」のような場所を表す名詞を目的語としてとる動詞があります。その多くは対象が存在することを表す動詞です。例としては、**ウン un**「～が～にある、いる」、**オマ oma**「～が～に入る」、**オ o**「～が～に位置する、入る」などの動詞があります。

ステップ27 所有の表現 1

(例文)

1. クハチリ ヒネ クテケヘ ピロ。
 Ku=hacir hine ku=tekehe piro.
 私が・倒れる て 私の・手 傷がつく
 「私は倒れて手に傷がつけました」

2. トアン クル シノ ケマハ アラカレ。
 Toan kur sino kemaha arkare.
 あの 人 本当に 足 痛める
 「あの人はひどく足を痛めました」

3. ネウン ポカ ネウン ポカ クサパハ クノイノイエ コロ
 Neun poka neun poka ku=sapaha ku=noynoye kor
 どう か どう か 私の・頭 私が・ねじる ながら
 クイエ コロ カン。
 ku=ye kor k=an
 私が・言う ながら 私が・いる
 「なんとか私は頭をひねりながら話しています」

4. レラ ウエン ワ クレクチ アラカ。
 Rera wen wa ku=rekuci arka.
 風 悪い て 私の・喉 痛い
 「風がひどくて私は喉が痛いです」

名詞の所属形と概念形

アイヌ語の名詞には概念形と所属形の二種類があります。概念形は一般的・抽象的な意味で用いられ、所属形は「AのB」という所有の表現に用いられます。

- (1) 所有の表現は「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」のように言葉を並べます。
- (2) 母音で終わる名詞語幹の場合、所属形は以下の方法で作られます。

概念形
 概念形＋hV (V: 母音)

- (3) 子音で終わる名詞語幹の場合、所属形は以下の方法で作られます。

概念形＋所属形接尾辞
 概念形＋所属形接尾辞＋hV

- (4) 所属形接尾辞はイiであることが多いですが、アa, ウu, エe, オoのこともあります。また、ウw, イyで終わる語幹の場合、所属形接尾辞はエeとなります(-hVのVは、最後の母音と同じ母音が現れます)。

ステップ28 所有の表現 2

(例文)

1. エアシケペチヒ ヘンパク ペ アン?
 E=askepecihi hempak pe an?
 あなたの・指 いくつの もの ある
 「あなたの指は何本ありますか」
2. イソカピウ シネ ラプフ ネ ヤッカ プヤラ オツ タ
 Isokapiw sine rapuhu ne yakka puyar or ta
 アホウドリ 一つの 羽 である ても 窓 ところに
 アパ オツ タ アラチッケレ コロ ピリカ プ ネ ナ。
 apa or ta a=racitkere kor pirka p ne na.
 戸 ところに 人が・下げる と 良い もの である よ
 「アホウドリの羽の一枚でも、窓のところに、戸口のところにぶら
 下げておくとよいのですよ」
3. クコロ サラニプ コイラ ワ ケク。
 Ku=kor saranip k=oyra wa k=ek
 私が・持つ 編み袋 私が・忘れる て 私が・来る
 「私の編み袋を私は忘れてきました」
4. ケレ ポロンノ テ タ アン。 エコロ ケレ アン ヤ?
 Ker poronno te ta an? e=kor ker an ya?
 履物 たくさん ここ に ある あなたが・持つ 履物 ある か
 「履物がたくさんここにあります。あなたの履物がありますか」

所有の表現

「A の B」という所有の表現には、以下の二通りのパターンがあります。

- (1)「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」を用いた所有の表現は、身体部位などのように、相手に譲り渡すことが不可能な場合に用いられます。
- (2)同じ所有の表現であっても、飼育動物など、相手に譲渡することが可能な場合には、**コロ kor**「～が～を持つ」という動詞を用いて、「人称接辞＋**kor**＋名詞」または「名詞＋**kor**＋名詞（概念形）」と表現します。

ステップ29 親族関係の表現

(例文)

- カニ アナクトウキョウ オルン クシネウエ クス カキヒ クト°ラ
 Kani anak tokyo or un ku=sinewe kusu k=akihi ku=tura
 私 は 東京 ところへ 私が・訪れる ので 私の・弟 私が・連れる

ワ カヲパ クニ クラム コロ カン。
 wa k=arpa kuni ku=ramu kor k=an.
 て 私が・行く ように 私が・思う ながら 私が・いる
 「私は東京を訪れるために、弟を連れて行こうと思っています」
- ウナラペ マタキヒ ネ ルウエ？
 Unarpe matakihi ne ruwe?
 伯母 妹 である の
 「伯母さんの妹ですか」
- エコロ フチ エト°ラ ワ エチアヲキ シリ？
 E=kor huci e=tura wa eci=arki siri?
 あなたが・持つ おばあさん あなたが・連れる て あなたたちが・来る の
 「あなたのおばあさんと一緒に来たのですか」
- ヘカチ コロ ハポ ト°ラノ ウコイタク コロ オカ。
 Hekaci kor hapo turano ukoytak kor oka.
 子供 持つ 母 とともに 話す ながら いる
 「子供が母親とともに話をしています」

親族関係の表現

親族関係の表現には、「人称接辞＋名詞所属形」または「名詞＋名詞所属形」が用いられる場合があります。一方、「人称接辞＋kor＋名詞」または「名詞＋kor＋名詞」が用いられる場合もあります。

親族関係の表現には方言差も大きく、どのように使えばいいのか不明な場合もあります。

呼びかけの表現

相手に呼びかける場合は、人称接辞が用いられない傾向がみられますが、詳細は不明です。

ステップ30 形式名詞

(例文)

1. ポントノマツ クヌレ クニ クラム コロ ケク ルウェネ ワ。
Pontonomat ku=nure kuni ku=ramu kor k=ek ruwe ne wa.
若い婦人 私が・聞かせる ように 私が・思う ながら 私が・来る 様子 である よ
「若い御婦人に私は聞かせようと思いながら来たのですよ」
2. ヘマンタ エカラ コロ エアン シリ アン？
Hemanta e=kar kor e=an siri an?
何 あなたが・する ながら あなたが・いる 様子 ある
「あなたは何をしていますのですか？」
3. マク シノ クイキ コロ ピリカ オアシ ハウェネ ヤ ケランペウテク。
Mak sino ku=iki kor pirka oasi hawe ne ya k=erampewtek.
どう 本当に 私が・すると 良くなる しようとする 声 である か 私が・わからない
「本当にどのようにしたら良くなるというのか私にはわかりません」
4. ャンタ ニンパ ワ アラパ フミ アン？
Hnta ninpa wa arpa humi an?
何 引きずる て 行く 音 ある
「何を引きずっていく音でしょうか？」

形式名詞の用法

例文の中のルウエ ruwe, シリ siri, ハウエ hawe, フミ humi は、いずれも日本語の「の」「こと」などにあたる意味をあらわす言葉です。これらの言葉は形式名詞（または名詞化辞）とよばれます。

- (1)ルウエ ruwe は話し手が確信している事柄に用いられます。
- (2)シリ siri は視覚によって認識された事柄に用いられます。
- (3)ハウエ hawe は発言などによって認識された事柄に用いられます。
- (4)フミ humi は物音や身体感覚などによって認識された事柄に用いられます。

形式名詞と動詞の組み合わせ

形式名詞はネ ne 「～が～である」という動詞と組み合わせられて、日本語の「のだ」「ことだ」にあたる表現をつくります。一方、形式名詞とアン an（複数形オカ oka）「～がある、いる」を組み合わせると、感嘆の表現になります。

ステップ31 連体修飾表現

(例文)

1. アシトマ ノ アン セタ エク コロ アン。
 A=sitoma no an seta ek kor an.
 人が・怖い て ある 犬 来る つつ ある
 「怖い犬が近寄ってきます」

2. ケウトウム ピリカ メノコ ネ ワ。
 Kewtumu pirka menoko ne wa.
 心 良い 女 である て
 「心のきれいな女性であって」

3. アエミナ ノイネ オカ ウウェペケレチヌ ワ チェミナ コロ
 A=emina noyne oka uwepeker ci=nu wa c=emina kor
 人が・笑う らしく ある 昔話 私たちが・聞く て 私たちが・笑う ながら
 オカアシ シリ ウン。
 oka=as siri un.
 いる・私たちが 様子 ある
 「おかしげな昔話を私たちは聞いて笑っていたのですよ」

4. ウンマ カ チナ カ アモムカ パクノ アンポロ ワッカ アン。
 Umma ka cip ka a=momka pakno an poro wakka an.
 馬 も 舟 も (不定)・流すまで ある 大きい水 ある
 「馬も舟も流されるほどの洪水がありました」

連体修飾表現

ある単語や句が名詞を修飾する構造を連体修飾節といいます。

- (1) アイヌ語の連体修飾節は、日本語と同じように、修飾を受ける名詞の前に置かれます。
- (2) 修飾を受ける名詞には、本来の文の主語に相当するもの、目的語に相当するもの、所有者に相当するものなどの種類があります。

ステップ32 「この」「その」「あの」連体詞

(例文)

1. シネ ポイ シサム クルマ エノレ ワ ヒナクン エントラ。
 Sine pon sisam kuruma en=ore wa hinak un en=tura.
 一人の 若い 和人 車 私を・乗せる て どこ へ 私を・連れる
 「一人の若い和人が車に私を乗せてどこかへ私を連れて行きました」
2. タアンクル ウニ ウン パイエアン ル エネパカシヌ ワ エンコレ。
 Taan kur uni un paye=an ru en=epakasnu wa en=kore.
 この 人 家 へ 行く・人が 道 私に・教える て 私に・与える
 「この人の家へ行く道を私に教えてください」
3. タン クスリ アナク シノ ピリカ。
 Tan kusuri anak sino pirka.
 この 薬 は 本当に 良い
 「この薬は本当に良いです」
4. トアン ヘカチ ピリカ ヘカチ ネ ワ クホメカラ。
 Toan hekaci pirka hekaci ne wa ku=homekar.
 あの 子供 良い 子供 である て 私が・誉める
 「あの子供は本当に良い子供ですから私は誉めてあげました」
5. ネア エンコピシ プ コイラ プ カ ケラムアン。
 Nea en=kopisi p k=oyra p ka k=eramuan.
 その 私に・尋ねる もの 私が・忘れる もの も 私が・知る
 「その私に尋ねたことを、私が忘れたことも覚えています」

連体詞を用いた表現

連体詞は日本語の「この、その」や「2つの」のように、名詞の前に置かれて位置や数などの情報を付け加える言葉です。連体詞には数を表すもの（「1つの」「2つの」）や空間を指示するもの（「この」「あの」）、前に出てきた話題を指示するもの（「その」）などがあります。

- (1) 数を表す連体詞には、**シネ sine**「1つの、1人の」、**ト° tu**「2つの、2人の」、**レ re**「3つの、3人の」などがあります。詳しくは初級編を参照してください。
- (2) 空間を指示する連体詞には、**タアン taan**（複数形は**タオカ taoka**）「この（自分のすぐ近くにあるもの）」**タン tan**「この（自分が手に持っているもの）」**トアン toan**（複数形は**トオカ tooka**）「あの（自分から遠い位置にあるもの）」などがあります。なお、時間を指示する場合には、**タン tan**「この」が用いられます。
- (3) 前に出てきた話題を指示する連体詞には、**ネア nea**（複数形は**ネロク nerok**）「その」、が使われます。

単語を覚えよう4 ～動作を表す言葉2～

1.	コロ	kor	「持つ」
2.	ヌカラ	nukar	「見る」
3.	ヌ	nu	「聞く」
4.	エ	e	「食べる」
5.	ク	ku	「飲む」
6.	ミ	mi	「着る」
7.	マカ	maka	「開ける」
8.	セッケ	seske	「閉める」
9.	アフンケ	ahunke	「入れる」
10.	サンケ	sanke	「出す」

さまざまなイロセ4

◇人称接辞の歌（「ドレミの歌」の節で） 沙流・千歳方言で作りました。

クは私の ku= エはあなたの e= eci（エチ）=あなたたち
 ci=（チ）はてまえども =as（アシ）は自動詞に a= は一般に
 =an（アン）は敬称も en=（エン） un=（ウン） e=（エ） eci=（エチ） i=（イ）

☆歌って人称接辞の役割を覚えてしまいましょう。（作成：北原次郎太）

ク	ku=	1 人称単数主格	動詞について「私は、私が」 名詞について「私の」
エ	e=	2 人称単数主格	動詞について「君は、君が」名詞について「君たちの」
エチ	eci=	2 人称複数主格	動詞について「君たちは、君たちが」 名詞について「君たちの」
チ	ci=	除外的 1 人称複数主格	他動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」名詞について「私たちの」
アシ	=as	除外的 1 人称複数主格	自動詞について 「(相手を含まない) 私たちは、私たちが」
ア	a=	不定人称主格	不定人称主格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」 「(敬称表現の際に) あなたは、あなたが」名詞について「(相手を含む) 私たちの」
アン	=an	不定人称主格	自動詞について 「(相手を含む) 私たちは、私たちが」 「一般に人は、人が」
エン	en=	1 人称単数目的格	
ウン	un=	1 人称複数目的格	他動詞について「私に、私を」他動詞について「私たちに、私たちを」他動詞について「君に、君を」他動詞について「君たちに、君たちを」不定人称
エ	e=	2 人称単数目的格	
エチ	eci=	2 人称複数目的格	
イ	i=	不定人称目的格	目的格 他動詞について 「(相手を含む) 私たちに、私たちを」 「人に、人を」「あなたに、あなたを」

ステップ33 「～へ」「～から」格助詞

(例文)

1. ル ウェンワ ト°イマ オルン パイエアン エアイカフ。
Ru wen wa tuyma or un paye=an eaykap.
道 悪い て 遠い ところ へ 行く・私たちが できない
「道が悪くて遠い所へ行くことができません」
2. ポイサロ シネフ ト ニカ ペカ シノツ コロ アン。
Poysaro sinep to ni ka peka sinot kor an.
小猿 一匹 ずっと木 上 で 遊ぶ ながら いる
「小猿が一匹、ずうっと遠く、木の上で遊んでいました」
3. ネイタ ネ ヤッカ トアン クル ト°ラ ウウエト°ナンカヲアン。
Neyta ne yakka toan kur tura uetunankar=an.
いつ である ても あの 人 と共に 出会う・私たちが
「いつもあの人に出会います」
4. ヌマン ヒコキ アニ トウキョウ ワ サッポロ ウン ケク。
Numan hikoki ani Tokyo wa Sapporo un k=ek.
昨日 飛行機 で 東京 から 札幌 へ 私・来る
「昨日飛行機で私は東京から札幌へ来ました」

格助詞を用いた表現

日本語の「て、に、を、は」のように、名詞の後に置かれてその名詞の文法的な役割を示す言葉を格助詞(後置詞)といいます。主な格助詞を以下にあげます。

タ	ta	～に、～で (場所・到着点)
ウン	un	～へ (方向)
ペカ	peka	～で、～を (広い場所)
ワ	wa	～から (起点)
ネ	ne	～として、～に

なお、格助詞に相当する役割をもつ言葉として、後置副詞があります。主な後置副詞を以下にあげます。

ト°ラシ	turasi	～に沿って上流へ
エソロ	esoro	～に沿って下流へ
オシ	os	～の後から
ト°ラ	tura	～と共に
アニ	ani	～で、～を用いて (道具・手段)

ステップ34 「～も」「～だけ」 副助詞

(例文)

- チセ オハシリ ネ ネン カ イサム。
 Cise ohasir ne nen ka isam.
 家 空屋 である 誰 も いない
 「家が空家で誰もいません」
- エコロ ウェンタラフ アナクネ エペカ ナンコロ。
 E=kor wentarap anakne epeka nankor.
 あなたが・持つ 夢 は 当たる だろう
 「あなたの夢はきつとかなうでしょう」
- カニ ヘム クネフキ。
 Kani hem ku=nepki.
 私 も 私が・働く
 「私も働きます」
- オイペピヒ ポカ ウク クス エク カ ソモ キ。
 Oypepihi poka uk kus ek ka somo ki.
 食器 だけでも 取る ために 来る も (否定) する
 「(あの人は) 食器だけでも取りにも来ません」

副助詞を用いた表現

日本語の「～も」「～だけ」のように、他の単語の後に置かれて、その単語を取り立てる役割をもつ言葉を副助詞といいます。主な副助詞としては以下のようなものがあります。

アナク（ネ）	anak(ne)	～は（主題）
ヘネ	hene	～でも（例示）
カ	ka	～も（追加）
ヘム	hem	～もまた（追加）
ポカ	poka	～だけでも（限定）
タップ	tap	～こそ（強調）

ステップ35 「～した」「これから…する」助動詞

(例文)

1. エア^ラキンネ ケラマス ア ワ。
 Earkinne k=eramasu a wa.
 とても 私が・楽しい た よ
 「私はとても楽しかったです」

2. マク ネ クス エネ ポ エアシリ アプト アシ カシパ。
 Mak ne kusu ene po easir apto as kaspā.
 どう である ので このようになお まさしく 雨 降る しすぎる
 「どうしてこのように雨が降りすぎるのでしょうか」

3. フ チェフ アッカリ アマ チェフ ケ ルスイ。
 Hu cep akkari a=ma cep k=e rusuy.
 生 魚 より 人が・焼く 魚 私が・食べる したい
 「生の魚よりも焼いた魚を私は食べたいです」

4. ラクル イロンネ ワ ト°イマノ インカラアン エアイカフ。
 Rakur ironne wa tuymano inkar=an eaykap.
 霧 濃い て 遠く 見る・人が できない
 「霧が深くて遠くを見ることができません」

助動詞を用いた表現

「…したい」「…できる」のように、動詞の後におかれて、時間、推量、意志、能力などの意味を表す言葉を助動詞といいます。主な助動詞としては、以下のようなものがあります。

ア	a	…した（完了）
ロク	rok	…した（完了・複数形）
アアン	aan	…したのだった（事実の確認）
ニサ	nisa	…したばかりだ
オケレ	okere	…し終える
カス	kasu	…すぎる
カシパ	kaspa	…しすぎる（複数形）
ナンコロ	nankor	…するだろう（推量）
ルスイ	rusuy	…したい（願望）
エアシカイ	easkay	…できる
エアイカフ	eaykap	…できない
コパン	kopan	…するのを嫌がる

なお、動詞と「…した」を表すア a を繰り返すことで「何度もする」「…し続ける」という意味を表すことができます。

カムイノミアナ	カムイノミアナ
kamuynomi=an a	kamuynomi=an a...
神を祭る・私たちが た	神を祭る・私たちが た
「私たちは何度も神を祭って」	

ステップ36 「～して」「～しながら」 接続助詞 1

(例文)

1. ウパシ アオテッテレケ ワ ル アカラ。
Upas a=otetterke wa ru a=kar.
雪 私たちが・踏む て 道 私たちが・つくる
「私たちは雪を踏みつけて道をつくりました」
2. イウオロ オッタ シット°ライヌアン ワ ライホト°イパアン。
Iwor or ta sitturaynu=an wa rayhotuypa=an.
山奥 ところで 道に迷う・私たちが て 大声で叫ぶ・私たちが
「私たちは山で道に迷って大声で叫びました」
3. アラパアン アイネヌプリ イマク タ アラパアン コロ ポロ ト アン。
Arpa=an ayne nupuri imak ta arpa=an kor poro to an.
行く・私たちが て 山 背後 に行く と 大きい湖 ある
「私たちが歩いて行って、山の背後に行くと大きな湖がありました」
4. タン ネプキ アナク ニサッタ クカラ クニ クラム コロ カン。
Tan nepki anak nisatta ku=kar kuni ku=ramu kor k=an.
この 仕事 は 明日 私が・する ように 私が・思う ながら 私が・いる
「この仕事は明日にしようと思いはいながらいます」

接続助詞を用いた表現 1

接続助詞とは、日本語の「…しながら」「…して」のように、前の文と後の文をつなぐ働きをもつ助詞です。接続助詞には前の文と後の文との時間的な関係（「～しながら…する」など）を表すものや、論理的な関係（「…したので…する」など）を表すものなどがあります。このステップでは、主として時間的な関係を表す接続助詞について取り上げます。

- (1) 時間的な関係を表す場合、前の文と後の文が前後関係（「…して…する」）にあるのか、それとも同時的な関係（「…しながら…する」）にあるのかによって表現が区別されます。
- (2) 「…して…する」のような時間的な前後関係を表す場合には、ワ wa 「…して」が使われます。また、「…し続けてその結果」のような意味を表す場合には、アイネ ayne 「…して」が用いられます。
- (3) 「…しながら…する」のような同時的な関係を表す場合は、コロ kor 「…しながら」が用いられます。

ステップ37 「～なので」「…すると」 接続助詞 2

(例文)

1. イラマンテ クス アラパ ワ イサム。
 Iramante kusu arpa wa isam.
 狩りをする ために 行く て いない
 「(あの人は) 狩りをするために行ってしまいました」
2. オヤパ シリサク ヤクン トウキョウ オルン
 Oyapa sirsak yakun Tokyo or un
 来年 夏になる なら 東京 ところ へ
 シネウェアン クス パイエアン 口。
 sinewe=an kusu paye=an ro.
 遊びに行く・私たちが ために 行く・私たちが しよう
 「来年の夏になったら、東京へ遊びに行きましょう」
3. チセ クコン ルスイ ヒ ケヤイコシラムスイパ コロ カン
 Cise ku=kor rusuy hi k=eyaykosiramsuypa kor k=an
 家 私が・持つ したい こと 私が・考える ながら 私が・いる
 アクス ソンノ ネ クス クニヒ アン。
 akusu sonno ne kusu k=unihi an.
 ところが 本当に である ので 私の・家 ある
 「私は家を持ちたいと思っていましたが、本当に自分の家が建ちました」
4. ヌマン アプトアシア コロカ タント アナク エアラキンネ シリピリカ。
 Numan apto as a korka tanto anak earkinne sirpirka.
 昨日 雨 降るた けれど 今日 は とても 天気がよい
 「昨日は雨が降りましたが、今日はとても天気が良いです」

接続助詞を用いた表現 2

このステップでは、主に「…するので（原因・理由）」、「…するために（目的）」、「…すると（条件）」、「…しても（譲歩）」、「…したところが（逆接）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1)原因・理由の表現には**クス kusu**「…するので」という接続助詞が用いられます。目的の表現には**クニ kuni**、**クニネ kunine**「…するために」のほか、**クス kusu**「…するために」などが用いられます。
- (3)条件の表現には**ヤクン yakun**、**コロ kor**「…したら、…すると」などが用いられます。また、「…したところ」のような意味を表す場合には**アクス akusu**という形が用いられます。
- (3)譲歩の表現には**ヤッカ yakka**「…しても」、などが用いられます。また、逆接の表現には**コロカ korka**「…するけれども」が用いられます。

ステップ38 「…するように」 接続助詞3

(例文)

1. タント ヤイヌ ピリカ ワ ヘ ミナ カネ アン。
Tanto yaynu pirka wa he mina kane an.
今日 気分 良い て か 笑う て いる
「(あの人は) 今日は気分が良いのか、にこにこ笑っています」
2. トアン ポン マッカチ アナク ケウト°ム サウレ プ ネ ノイネ アン。
Toan pon matkaci anak kewtumu sawre p ne noyne an.
あの 幼い 少女 は 心 優しい 者 である らしく ある
「あの幼い少女は心の優しい子のようです」
3. パロ コマレ コロ クイクイ ペコロ イキ コロ ルキ ワ イサム。
Paro k=omare kor kuykuy pekor iki kor ruki wa isam.
ロ 私が・入れると かむ ように すると 飲み込んで しまう
「私が口に入れると、(その人は) かむようにして飲み込んでしまいました」
4. イテキイ イカシマレ ノ オピッタ エ ワ イサム。
Iteki ikasmare no opitta e wa isam.
(禁止) 余らせる て すべて 食べる て しまう
「残さないで全部食べてしまいなさい」

接続助詞を用いた表現3

このステップでは、主に「…するほどに（程度）」、「…するように（推定）」、「…するみたいに（比況）」、「…しないで（否定）」、「…する様子で（状態）」などの表現に用いられる接続助詞について取り上げます。

- (1) 程度の表現にはカネ kane 「…するほどに」という接続助詞が用いられます。
- (2) 推定の表現にはノイネ noyne 「…するらしく」などが用いられます。
- (3) 比況の表現にはペコロ pekor 「…するかのよう、…するみたいに」が用いられます。
- (4) 否定や禁止、状態の表現にはノ no 「…して」が用いられます。

ステップ39 接続助詞と動詞を組み合わせた表現 1

(例文)

1. ヤイカタ クヤイヌ コロ カン。
 Yaykata ku=yaynu kor k=an.
 自分で 私が・考える ながら 私が・いる
 「私は自分で考えながらいます」

2. コナハ クヌフ カ アラキ エヤイト°パ コロ オカ。
 K=onaha k=unuhu ka arki eyaytupa kor oka.
 私の・父 私の・母 も 来る したがる して いる
 「私の父も母も来たがっています」

3. タアン クル アナク シイエイエ アニ オホンノ ホッケ ワ アン。
 Taan kur anak siyeye ani ohonno hotke wa an.
 この 人 は 病気 で 長い間 寝る て いる
 「この人は病気でずっと寝ています」

4. エミッポウタリ アラキ ワ オカ。
 E=mippoutari arki wa oka.
 あなたの・孫たち 来る て いる
 「あなたのお孫さんたちが来ています」

接続助詞と補助動詞を用いた表現 1

接続助詞と、**アン an**（複数形**オカ oka**）「～がある、いる」また**イキ iki**「～が…する」などの動詞（補助動詞）が組み合わせられ、「…している」「…しつつある」などの意味が表されることがあります。なお、これらの表現においては、補助動詞にも人称接辞がつけられます。

- (1) 動作や変化の進行を表す表現には、**コロ アン kor an**（複数形**コロ オカ kor oka**）「…しつつある」が用いられます。
- (2) 動作や変化の結果の状態を表す表現としては**ワ アン wa an**（複数形**ワオカ wa oka**）「…している、…してある」が用いられます。

ステップ40 接続助詞と動詞を組み合わせた表現2

(例文)

1. ピシキ ワ インカラ。
 Piski wa inkar.
 数える て みる
 「数えてみなさい」

2. コピシ ワ イヌ。
 Kopisi wa inu.
 尋ねる て みる
 「聞いてみなさい」

3. ケヤム ペ アロロキシネ クヌイナ ワ カヌ。
 K=eyam pe arorkisne ku=nuyna wa k=anu.
 私が・大切に もの こっそり 私が・隠す て 私が・置く
 「大切なものを私はこっそり隠しておきました」

4. コイラ ワ オケレ。
 K=oyra wa okere.
 私が・忘れる て 終える
 「私は忘れてしまいました」

5. クニ ウン シネウェエエク ワ エンコレ。
 K=uni un sineweek wa en=kore.
 私の・家 へ 遊びに来る て 私に・与える
 「私の家へ遊びに来てください」

接続助詞と補助動詞を用いた表現 2

前のステップで取り上げた接続助詞と補助動詞の組み合わせには、他にも様々なものがあります。

- (1)「…してみる」という表現には、**ワ インカラ wa inkar**「…してみる」、**ワ イヌ wa inu**「…してみる」が用いられます。「見てみる、作ってみる」などには**ワ インカラ wa inkar**を使い、そのほかの「触ってみる、聞いてみる、味わってみる」などには**ワ イヌ wa inu**を使います。
- (2)「…しておく」という表現には**アヌ anu**が用いられます。
- (3)「…してしまう」という表現には**ワ オケレ wa okere**または**ワ イサム wa isam**が用いられます。
- (4)「…してくれる」という表現には**ワ コレ wa kore**が用いられます

単語を覚えよう5 ～程度を表す言葉～

1.	アプンノ	apunno	「静かに」
2.	ユアケノ	yupkeno	「強く」
3.	ト°ナシノ	tunasno	「急いで」
4.	ラッチノ	ratcino	「ゆっくりと」
5.	ピリカノ	pirkano	「きれいに」
6.	イヨッタ	iyotta	「最も、一番」
7.	ニサプ	nisap	「急に」
8.	シノ	sino	「非常に」
9.	レンカイネ	renkayne	「意志によって、勝手に」
10.	アリキキノ	arikikino	「一生懸命に」

さまざまなイロセ5

十勝地方

◇芽室太のタッカラ「踏み舞」

タネアナッネ ラカ イサム オンネ ヲ クネ クス ンンン
tane anak raka isam onne p ku=ne kusu nnn

今や何の甲斐もない年寄りとなりましたので

シクヱ アイヌ ウタリ オッカイ シクヱ ウタラ
sikap aynu utari okkay sikap utar

若い者たち 若い男たち

シクヱ メノコ ウタラ エカッタラ コクシシノポ
sikap menoko utar ekattar kokusisno po

若い女たち 子供たちとともに

イワンケノポ ウオオンフウォ!
iwankeno po uoo nn huo!

達者で（暮らしすように）

クオンカミ ハウ エシタパン ナ。
ku=onkami haw estap an na.

私は拝礼するのです。

（語り手：高橋勝次郎さん）

☆語り手の高橋さんが、芽室太出身の小川エタイェクルというエカシのタッカラを思い出して演じたものです。高橋さんがふだん演じていたタッカラとは節が違いますが言葉運びは似ています。

☆この歌を収録するにあたり、『「東北北海道のアイヌ古謡録音テープ」の内容調査研究』アイヌ文化研究会（「アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告第8号 下巻資料編」財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構 2009年）を参照しました。

ステップ41 「～だよ」「～ですか」終助詞

(例文)

1. ウト°ラ エチオカ クニネ ネ ヤク ピリカ ナ。
 Utura eci=oka kunine ne yak pirka na.
 一緒に あなたたちが・いる ように である ならば 良い よ
 「あなたたちが一緒にいるようになれば良いのですよ」

2. アプンノ アン ハニ。
 Apuunno an hani.
 穏やかに いる なさい
 「穏やかに暮らさない」

3. ト°ン アネ ワ イクアン ロ。
 Tun a=ne wa iku=an ro.
 二人 私たちが・である て 酒を飲む・私たち しよう
 「二人でお酒を飲みましょう」

4. ネフ カ エネコイソイタク ペ アン ヤ?
 Nep ka en=ekoysoytak pe an ya?
 何 か あなたが私に・話す もの ある か
 「何か私に話すことはありますか」

5. モシマ クル クコシネウエ ワ クモイレ ルウエ ウン。
 Mosma kur ku=kosinewe wa ku=moyre ruwe un.
 他の 人 私が・訪ねる て 私が・遅れる 様子 よ
 「他の人のところを訪ねていて、私は遅れたのですよ」

終助詞を用いた表現

文の最後におかれて、疑問や命令、確認などの意味を表す言葉を終助詞といいます。主な終助詞としては以下のようなものがあります。

ナ	na	…（する）ぞ（聞き手への促し）
ワ	wa	…（する）よ（質問に対する答え）
ハニ	hani	…しなさい（言い聞かせ・念押し）
ヤン	yan	…しなさい（複数・丁寧な命令）
ロ	ro	…しよう（勧誘）
ヤ	ya	…（する）か（疑問）
ウン	un	…（する）よ（応答）

なお、ヤン yan 「…しなさい」は複数形の動詞とともに使われ、2人以上の相手への命令、または丁寧な命令を表します（例：アラキ ヤン arki yan「来なさい」）。

ステップ42 形式名詞による文末表現1

(例文)

1. ヌマン エチヌカン ルウェ ネ。
 Numan eci=nukar ruwe ne.
 昨日 私があなたを・見る 様子 である
 「昨日私はあなたを見かけました」

2. セコロ セコロ アカラ ペ ネ ナ。
 Sekor sekor a=kar pe ne na.
 このように このように 人が・つくる もの である よ
 「こういうふうにつくるものなのですよ」

3. タネ クイエ オアシ ハウエ タパン ナ。
 Tane ku=ye oasi hawe tapan na.
 今 私が・言う しようとする 声 である よ
 「私が今から言い始めますよ」

4. ネノ エエク ワ ウンコレ クス
 Neno e=ek wa un=kore kusu
 そのように あなたが・来る て あなたが私たちに・与える ので
 シノ エチコブンテック ルウェ タパン ナ。
 sino eci=kopuntek ruwe tapan na.
 本当に 私があなたを・喜ぶ 様子 である よ
 「そのようにあなたが来てくれたので、本当に私は嬉しいのですよ」

形式名詞を用いた文末表現 1

形式名詞は様々な動詞や副助詞、終助詞などとともに、文末表現をつくります。

- (1) 聞き手に事情を説明する場合には、「形式名詞＋ネ ne」という表現が用いられます。
- (2) 聞き手に教え諭すような場合には、「形式名詞＋タパン tapan ＋ナ na」という表現が用いられることがあります。

ステップ43 形式名詞による文末表現2

(例文)

1. マカン ペ クス エモイレ ア ルウェ アン?
 Mak an pe kusu e=moyre a ruwe an?
 どう ある もの なので あなたが・遅れる た 様子 ある
 「どうしてあなたは遅れたのですか？」

2. フンナ エキクキク ハウエ アン?
 Hunna e=kikkik hawe an?
 誰 あなたが・叩く 声 ある
 「誰があなたを叩いたというのですか？」

3. ウクラン エイク ルウェ?
 Ukuran e=iku ruwe?
 昨夜 あなたが・お酒を飲む の
 「昨夜あなたはお酒を飲んだのですか？」

4. エシニ カ ソモ キ ノ エアリキキ シリ?
 E=sini ka somo ki no e=arikiki siri?
 あなたが・休む も (否定) する て あなたが・頑張る の
 「あなたは休みもしないで働いていたのですか？」

形式名詞を用いた文末表現 2

前のステップで取り上げた形式名詞による文末表現は、他にも様々なものがあります。

- (1) 疑問詞を用いた疑問の表現の場合、「形式名詞 + アン an」が用いられます。
- (2) 「はい」「いいえ」で答える疑問の表現の場合、形式名詞で文が終始します。

ステップ44 「～と」引用の表現

(例文)

- クミチ ホクレ ホクレ ネナキ ネナキ セコロ エイイエ。
 Ku=mici "hokure hokure nepki" nepki sekor en=ye.
 私の・父 さあ さあ 働く 働く と 私・に言う
 「私の父は『さあさあ働け働け』と私に言います」
- ネン カ トアン クル ウェン セコロ アナク エヤイコシラムスイパ
 Nen ka "toan kur wen" sekor anak eyaykosiramusuypa
 誰 も あの 人 悪い と は 考える
 ソモ キ。
 somo ki.
 (否定) する
 「誰も『あの人が悪い』とは考えません」
- カムキリ クル ウニヒ ウフイ ワ コロ ワ オカイ ペ オピッタ
 K=amkir kur unihi uhuy wa kor wa okay pe opitta
 私が・知る 人 家 燃える て 持つ て いる もの すべて
 ウフイワ イサム ヤク アイエ ワ アエラムポキウエン。
 uhuy wa isam yak a=ye wa a=erampokiwen.
 燃える て 無い と 人が・言うて 私が・気の毒に思う
 「私が知っている人の家が燃えて、持っていたものもすべて燃えて
 しまったということで、私は気の毒に思いました」
- タン アミナ クホク クニ クラム。
 Tan amip ku=hok kuni ku=ramu.
 この 着物 私が・買う ように 私が・思う
 「私はこの着物を買おうと思います」

引用の表現

誰かの言葉などを引用する表現には、様々なタイプがあります。

- (1)相手の発言などをそのまま引用する場合には、**セコロ** *sekor* 「〜と」が用いられます。
- (2)相手の発言などを間接的に引用する場合には、**ヤク** *yak* 「〜と」、**クニ** *kuni* 「…すると」などが用いられます。

参考文献

- 萱野茂（1995）『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂．
- 佐藤知己編（2012-2014）『アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究』1-3. 北海道大学アイヌ・先住民研究センター．
- 田村すず子（1972）「アイヌ語沙流方言の人称の種類」『言語研究』61.
- 田村すず子（1982）「アイヌ語沙流方言における上下を表す位置名詞」『言語研究』82.
- 田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館．
- 田村すず子ほか編（1984-2000）『アイヌ語音声資料』1-12. 早稲田大学語学教育研究所．
- 田村すず子（1985）『アイヌ語入門（改訂版）』早稲田大学語学教育研究所．
- 田村すず子（1997）「アイヌ語」『日本列島の言語』三省堂．
- 中川裕（1996）『アイヌ語千歳方言辞典』草風館．
- 服部四郎ほか編（1964）『アイヌ語方言辞典』岩波書店．
- 本田優子（2001）「川上まつ子アイヌ語文例集」『アイヌ民族博物館研究報告』7.

中級アイヌ語 —沙流—

発行年月 2014年3月

発行 公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構
〒060-0001

北海道札幌市中央区北1条西7丁目プレスト1・75階

TEL (011) 271-4171 FAX (011) 271-4181

URL <http://www.frpac.or.jp> E-mail: ainu@frpac.or.jp

印刷 株式会社北海道機関紙印刷所



公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構